



生駒市議会議員 無会派 伊木まり子
ニュース 2023年2月

発行人 伊木まり子 〒630-0261 生駒市西旭ヶ丘1-2

Tel 0743-73-2828 // Fax 0743-71-6601

Email: ikomanomirai@iris.eonet.ne.jp

http://www.eonet.ne.jp/~ikomanomirai



安心して生まれ、育ち、暮らせるふるさと生駒をつくろう



12月27日
定例会 閉会

議員定数削減決定 24 から 22 へ！

12月議会では、出産・子育て応援給付金や保育園等の送迎バスの安全装置導入支援などの補正予算の他、懸案だった議員定数を2削減し、22とする案が可決しました。その結果、4月に行われる市議会議員選挙では22人を選びます。また、定数の削減に伴い、予算を除く常任委員会の数は4から3になります (p2参照)。

市長提出の15議案(追加提案含む)と公明党から提案の意見書は私も賛成し、可決しました。

16日に家族が新型コロナウイルス感染症(コロナ)に感染、私は濃厚接触者のため、定数削減が決まった21日の本会議を欠席しました。幸い感染することなく、追加提案の補正予算を採決した27日の本会議は出席。私は削減議案の提出者の一人ですので、生駒市議会としては私も含め賛成17、反対4(議長は議決に加わりません)でした。

県域水道一体化について

一体化は安全で安心な水道水を将来にわたって持続的に供給する目的で進められています。生駒市は12月23日、奈良県に県域水道一体化への参加の意思を報告、2月1日には水道事業の統合に関する基本協定の締結を予定。3月の市議会定

例会で法定協議会の設置に関する議案が可決すれば令和7年からの事業開始に向け進みだします。私は一体化に賛成です。

学研高山地区第2工区(第2工区)について

平成6年に2万3千人が住む住宅都市計画が提案されましたが、紆余曲折を経て、昨年6月にマスタープランが策定されました (<https://www.city.ikoma.lg.jp/0000027324.html>)。自然環境と文化をしっかりと残しながら 奈良先端科学技術大学院大学を中心に、産学公民の連携で最先端の産業を創出するまち(人口約5千人)を目指します。11月21日には、県、UR(独立行政法人都市再生機構)も構成員として参加する 第1回 第2工区事業推進会議が開催され、令和7年度の事業認可に向けて動き出しています。
⇒ <https://www.city.ikoma.lg.jp/0000011055.html>

奈良交通バスの運行について

廃止や減便が心配されていましたが、当面、現在の運行を継続することになりました。通学や高齢者の足等公共交通機能の確保における市の役割の検討が必要です。



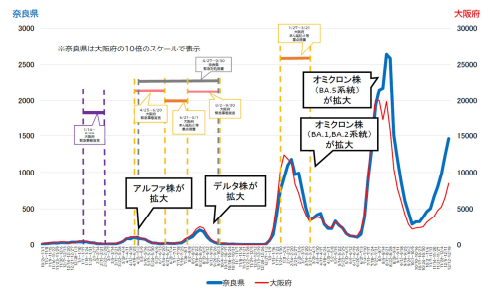
1/13 市立病院講演会
「COVID-19 現状」

コロナと奮闘の3年間を教訓に！

コロナ下でオンライン開催が続いていた生駒市立病院の医療講演会、1月13日は市立病院で開催。遠藤院長がこれまでのコロナ(COVID-19)への対応や現状を話されました。昨年12月末までの3年間に824人のコロナ患者が入院。武漢・α・δ・オミクロン株へとウイルスが変異し、症状も薬剤も変化する中で難しい対応を迫られました。現在の第8波では、高齢者における基礎疾患の悪化、誤嚥性肺炎、隔離によるADLの低下に苦慮しているとのことでした。

この3年間、市立病院だけでなく、発熱外来、ワクチン接種等、コロナ対応は地域の医療機関・看護・介護・行政・救急搬送に係る皆さんなど多くの方々の努力で乗り切ってきました。心より感謝し、引き続きの対応をお願いいたします。

今後、コロナは5類感染症となり、インフルエンザと同様の扱いになる見込みですが、これで終わりではありません。高齢者を守るなど、適切な感染防御が必要です。また、コロナ以上に感染性や致死率の高い感染症に見舞われる可能性もあります。そのような事態に備え、今回のコロナ禍を教訓に、市の役割、市立病院の役割、地域医療連携等を明確にすべきと考えています。



(奈良県ホームページより <https://www.pref.nara.jp/58509.htm>)

今回の議員定数削減は生駒市議会初の大改革です。私が初当選した平成19年の市議会議員選挙では、定数24に対し、新人9人が当選。その1年前に市長選で山下真氏が当選し、市政が大きく変わるうねりの中で行われた選挙でした。それから16年、現在の市議会は、平成15年初当選議員1人、平成19年初当選議員4人です。女性議員は現職22(欠員2)人のうち9人(41%)で、40・50歳代6人、65歳以上3人です。

16年前の初当選直後は声をかけても無視する議員がいたり、ヤジが飛び交い通常の会話もしにくく、私にはストレスの多い世界でした。それから16年、状況は変わりました。ヤジも少なくなり普通に話せます。定数削減提案をきっかけに今後の議会のあり方を考えました。

1期目からずっと24人がよいと考えてきた私は今回2減を提案。削減理由は前回のニュースでお知らせした通りです。2削減分は常任委員会数を3にすること、個々の議員のスキルアップと議会運営の改善でカバーできると考えましたが、生駒市議会については、自身の反省も込めて次のような改善が必要と考えています。

1：委員会制度の再構築を・・・議決を行う案件については、全議員で審議するのではなく、予算を除いては常任委員会(現在は企画総務・市民文教・厚生消防・都市建設の4委員会、次

の任期からは総務市民・厚生文教・経済建設の3委員会)に付託し、審査します。予算についても分科会で審査。議員は常任委員会と予算分科会の各1を担当します。この目的は委員が担当する分野を絞り、深い議論をするためです。ところが現状では十分な調査、研究により深い議論をしている議員ばかりではありません。議員は委員会制度の趣旨を再認識し、市民の負託に応えねばなりません。

2：意見書、丁寧な取りまとめを・・・意見書は議会の意思をまとめて国会や関係行政庁に提出する重要な意思表示手段です。今期は5意見書が採択されましたが、多様な意見の調整が不十分なものも。今後は意見書の意義を深く認識し、十分丁寧な調整が必要です。

3：議会としての提案に繋がる取組を・・・市民の命と健康のため、市民生活向上のため、子どもの健やかな成長のため、必要な施策を提案していく議会でありたいと思います。

平成11年に地方分権一括法が制定されて以降、地方議会の制度も大きく変化しました。生駒市議会も様々な改革を実施。現在も議会基本条例見直しワーキングで課題に対する改善策を協議中です。超少子化・超高齢化、コロナ禍、ウクライナ侵攻・・・等々の未曾有の事態に、より迅速に、より建設的な意見を出せる議会へと成長する必要があると思っています。

12/28 こども施策を市長に提案[伊木]

今年4月からこども基本法・こども家庭庁がスタート、こどもをめぐる国の制度は大きく変わります。国の動向を注視し、市のこども施策を検討してほしいと、私が今期一般質問で取り上げた発達障がい児支援や3人の小児科医の意見を参考に7項目を提案、主なものは次の通りです。

- ① ワンストップ相談窓口の設置と相談窓口から医療・福祉・教育など様々な部署に適切かつ迅速に連携できる仕組みの構築
- ② 出生時からの医療・福祉・教育等のデータの一元化とその有効活用
- ③ 全てのこどもたちが困ったときに躊躇することなく声を挙げられる仕組みづくり



1/26 災害対応に係る講演会開催[市議会]

平成30年6月に起きた大阪北部地震(震度6弱)の際に茨木市議会で陣頭指揮された元議長と元事務局長をお招きして講演会を開催。本会議開催日の早朝に発災、その後の市側との情報伝達、市・議員や市民の対応・行動を紹介。さらに議員がしてはいけないことをずばっと指摘。生駒市議会の災害対応マニュアルの問題点や定期的見直しの必要性などもわかりやすく説明。

また、条例提案や提言に繋がる常任委員会の取組み、党派会派の壁を越えた自主勉強会・子連れ勉強会・広報広聴活動、大学との連携など、市議会の取組みも紹介されました。生駒市議会でも取り入れたいと思いました。



医療はハート



ブログも
ご覧ください。

編集後記：ニュースを作りながら、自分のすべきこと・したいことがたくさん残っていると改めて思いました。元茨木市議会議長の桂睦子茨木市議のご講演を伺い、災害時対応見直しの必要性も再認識。一昨年、市制50周年を迎えた生駒市、市議会も新しい議会へ再スタートしなければと思った次第です。私ももう一頑張りできたらと思います。 まり子

**このニュースの発行・お届けに係る費用は
政務活動費から支出
しています。**